

第79回麻布獣医学会 市民公開講座「サラブレッドを語る」

名馬の蹄跡 ～ Memories of Horse Racing ～

森田 英利

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科 食品科学研究室 助教授

競馬の楽しさ、ってなんだろう。

ギャンブルとしての楽しみは誰もが認めるだろうが、今はそれだけでなく、スポーツ観戦として自分の好きな馬や騎手の応援をする人がいる。架空馬主となって特定の馬を応援し続ける遊び(POG)も定着してきた。馬だけを見るために競馬場に足を運ぶ人がいるらしい。

競走馬の生きた証はレースでの疾走である。私は、1頭の競走馬に直結し、体系づけて残すことができる最も良い物が単勝馬券だと考えた。想い入れのある馬のレースを振り返ると、その出走期間は短い。ガラスの脚に例えられる通り非常に儂い。私は、単勝馬券に名馬たちの生きた証を残したい気持ちに駆られるのである。

「馬券」という呼び名は通称で、正式には「勝馬投票券」という。レースの前に自分の賭けた買い目と金額を証明し、買い目が当たった際にそれを現金化できる有価証券、いやその証明書である。当たれば換金され、外れれば捨てられる馬券は、本来この世に残らない運命を授けられている。しかし、それに真っ向から刃向かい、当たり馬券を換金しないで残す行為をやってみた。外れ馬券も、その馬の走った証なので、勝ち負けには関係ない。外れ馬券も喜ん

で残している。

的中馬券は、換金できる有効期限を過ぎると当たった配当どころか額面すら保障されずに紙屑と化す。外れ馬券や換金できる有効期限の過ぎた当たり馬券のこれら「紙屑」を、「プラチナカード」とする理論や楽しみ方が、今回の講演の主旨である。

単勝馬券を通して、皆さんと一緒に名馬たちを顧みたい。同時に、世の中の技術と共に進化してきた「馬券史」も一緒に紹介する。明治、大正、昭和時代の馬券、オグリキャップの単勝馬券、いやもっと古いテンポイント、トウショウボーイ、ハイセイコーと、競馬ファンを超えて親しまれた名馬の単勝馬券の画像をご覧に入れる。寺山修司氏の残した当たり馬券に関しては、元・奥様の九條今日子さんにインタビューすることで明らかとなったスクープも紹介する(「競馬最強の法則」で紹介)。話題には事欠かないほど単勝馬券を残してきたので、講演時間のある限りお話したい。

皆さんも競馬場やウインズに行ったとき、当たり馬券であっても、外れ馬券であっても、持ち帰ってみてはいかがか! 後になって、その馬券に価値、いや思い出が刻まれているに違いない。